

2020年度 にいがた摂食嚥下障害サポート研究会主催 講演会

【日時】

2020年11月21日(土) 10:00-16:30 (予定)

ZOOM開催予定

【タイムスケジュール】

9:50 ZOOM 入室開始

10:00 開会挨拶

秋元 幸平会長 (にいがた摂食嚥下障害サポート研究会会長)

10:05-11:15 講演 **嚥下調整食と栄養サポート** (ご講演 60分, 質疑応答 10分)

座長 辻村恭憲先生 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

講師 小城明子先生 (管理栄養士, 東京医療保健大学)

11:15-11:30 企業からのメッセージ

11:30-12:40 講演 **食べること 生きること ~地域食支援と新たなコミュニティづくり~**

(ご講演 60分, 質疑応答 10分)

座長 辻村恭憲先生 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

講師 五島朋幸先生 (歯科医師, ふれあい歯科ごとう)

12:45-13:00 企業からのメッセージ

13:00-13:25 昼食休憩

13:25-14:00 講演 **訪問歯科診療を専門とするクリニックの取り組み** (ご講演 30分, 質疑応答 5分)

座長 渡邊賢礼先生 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

講師 白野美和先生 (歯科医師, 日本歯科大学新潟病院 訪問歯科口腔ケア科)

14:00-14:35 講演 **ゆきぐに大和病院における摂食嚥下臨床チームの取り組みについて**

(ご講演 30分, 質疑応答 5分)

座長 渡邊賢礼先生 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

講師 鈴木 拓先生 (歯科医師, 南魚沼市民病院・ゆきぐに大和病院)

14:40-15:55 講演 **超高齢社会における嚥下障害への対応** (ご講演 60分, 質疑応答 15分)

座長 井上 誠先生 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

講師 兵頭政光先生 (医師, 高知大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

15:55-16:30 講演 **新潟摂食嚥下ネットワーク懇談会の活動紹介** (ご講演 30分, 質疑応答 5分)

座長 伊藤加代子先生 (新潟大学医歯学総合病院 口腔リハビリテーション科)

講師 張替 徹先生 (医師, 下越病院副院長・リハビリテーション科)

16:30 閉会挨拶

井上 誠 副会長 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野)

講演要旨および講師略歴

こじょう あきこ
小城 明子先生 (東京医療保健大学 医療保健学部医療栄養学科)

<略歴>

管理栄養士，博士（学術），日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士，摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士

国家公務員共済組合連合会東海病院・介護老人保健施設ちよだ（栄養士），東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野（助教），神奈川歯科大学生理学分野（講師）等を経て，現職
令和2年度厚生労働省「特殊な調理に対応できる調理師研修事業<嚥下調整食研修>」に参画

<抄録>

嚥下調整食と栄養サポート（仮）

摂食行為は，本来は動物の本能的行為であり，個体維持のための栄養摂取が根底にある．そして，その報酬として，食べる楽しみが付与されている．つまり，摂食行為には，栄養と食べる楽しみを得る両方の側面がある．嚥下調整食であっても，同様である．嚥下調整食ではさらに，食形態や性状の調整が，安全な摂食行為につながることを求められている．本講演では，嚥下調整食のあり方にふれつつ，栄養サポートとの関連について言及する．

ごとう ともゆき
五島 朋幸 先生 (ふれあい歯科ごとう)

<略歴>

1991年日本歯科大学歯学部卒

1997年訪問歯科診療に取り組み始める

博士（歯学）

日本歯科大学附属病院口腔リハビリテーション科臨床准教授，東京医科歯科大学非常勤講師，新宿食支援研究会代表他．ラジオ番組「ドクターごとうの熱血訪問クリニック」パーソナリティー．著書に，「訪問歯科ドクターごとう 1:歯医者が家にやって来る!？」，「口腔ケア〇と×」，「愛は自転車に乗って 歯医者とスルメと情熱と」など

<抄録>

「食べること 生きること ～地域食支援と新たなコミュニティづくり～」

誰もが最期まで口から食べたいと願う．しかし，実際は様々な疾患により口から食べられなくなる時もある．そんな中，地域で口から食べるためにできることはある．何か食に問題があれば早期に見つける，それを適切な人につなぐ，そして結果を出すこと．さらに専門職は食に対する知識を社会に広めることが重要である．このような中，社会のコミュニティは変わりつつあるし，変わらざるを得ない．地域食支援をコミュニティづくりから考えていく．

^{しろの}白野 ^{みわ}美和 先生 (日本歯科大学新潟病院 訪問歯科口腔ケア科)

<略歴>

平成 9 年 3 月 日本歯科大学新潟歯学部 卒業
平成 11 年 4 月 日本歯科大学新潟歯学部 歯科補綴学教室第 3 講座 助教
平成 13 年 4 月 日本歯科大学附属病院総合診療科 助教
平成 19 年～ 日本歯科大学新潟病院 在宅歯科往診ケアチームの一員として活動開始
平成 24 年 4 月 日本歯科大学新潟病院 総合診療科 2 医長
平成 26 年 4 月 日本歯科大学新潟病院 訪問歯科口腔ケア科 科長
同上 准教授

<抄録>

「訪問歯科診療を専門とするクリニックの取り組み」

本学は 2018 年 4 月、三条市に訪問歯科診療専門の診療所「日本歯科大学在宅ケア新潟クリニック」を開設しました。開設の主な目的は、教育、後方支援、連携体制の構築です。

医療・介護ネットワークにおいて、歯科は口腔の専門家として参画し、特に口腔ケア、口腔リハビリテーション、食支援の分野において患者、家族、多職種からの期待が高くなっています。今回は、これらのニーズに応えるため病院、地域歯科診療所とともに行った取り組みをご紹介します。

^{すずき}鈴木 ^{たく}拓 先生 (南魚沼市民病院・ゆきぐに大和病院)

<略歴>

2014 年 新潟大学歯学部卒業
2015 年 新潟大学大学院医歯学総合研究科摂食嚥下リハビリテーション学分野入局
摂食嚥下の臨床ならびに生理に関わる基礎研究に従事
2018 年 博士課程修了(歯学博士)
同年 11 月 南魚沼市立病院群(南魚沼市民病院・ゆきぐに大和病院)赴任

<抄録>

「ゆきぐに大和病院における摂食嚥下臨床チームの取り組みについて」

ゆきぐに大和病院は、一般病床 45 床の公立病院として、魚沼地区の高齢者医療を支えている。同院では、2016 年に歯科医師を中心とした摂食嚥下臨床チームが発足し、多職種で週 2 回の嚥下回診を行っている。高齢の入院患者における当チームの取り組みについて症例を交えて紹介する。また、診療記録より後方視的に、高齢の誤嚥性肺炎患者の生命予後と、口腔状態・摂食嚥下機能との関連について調査を行ったので報告する。

<略歴>

- 1983年3月 愛媛大学医学部医学科卒業
- 1986年4月 愛媛県立伊予三島病院耳鼻咽喉科
- 1990年4月 愛媛大学医学部附属病院耳鼻咽喉科助手
- 1995年1月 スウェーデン，カロリンスカ研究所ストックホルム南病院に留学（～1996年3月）
- 1998年1月 愛媛大学医学部附属病院耳鼻咽喉科講師
- 2000年3月 愛媛大学医学部耳鼻咽喉科助教授
- 2008年4月 高知大学医学部耳鼻咽喉科教授
- 2016年4月 高知大学医学部附属病院副院長（兼務）

【資格】 耳鼻咽喉科専門医，気管食道科専門医，頭頸部がん専門医，ほか

【学会活動（2020年4月時点）】日本耳鼻咽喉科学会理事，日本嚥下医学会理事・理事長，日本気管食道科学会理事，日本音声言語医学会理事，日本喉頭科学会理事，日本口腔・咽頭科学会理事，日本小児耳鼻咽喉科学会理事，ほか

<抄録>

「超高齢社会における嚥下障害への対応」

本邦においては現在，全人口の7人に1人が75歳以上という超高齢社会に突入している．高齢者ではさまざまな要因により嚥下機能の低下を来す，その結果，嚥下障害は医療のみならず，社会的にも大きな問題となっている．本講演では，高齢者における嚥下障害の疫学，加齢による嚥下機能低下のメカニズム，評価法（特に嚥下内視鏡検査の見方と役割），および病態に応じた対応などについて述べる．

<略歴>

- 1989年 新潟大学医学部卒業．下越病院で初期研修
- 1992年 新潟市民病院，東京大学医学部附属病院，燕労災病院で研修
- 1997年 リハビリテーション科専門医取得
その後，下越病院，新潟リハビリテーション病院，新潟大学医歯学総合病院勤務
- 2015年 下越病院勤務（回復期リハ病棟専従医）
- 2018年 下越病院副院長

【資格】 リハビリテーション科専門医・指導医

<抄録>

新潟市の各地区に摂食嚥下障害に関する活動をする団体があるが，情報交換や交流，共通する課題を検討する場がなかった．

そこで，地域での活動団体，新潟市医師会，新潟市歯科医師会，新潟大学，日本歯科大学，新潟県栄養士会等から多職種が参加して「新潟摂食嚥下ネットワーク懇談会」を設立した．

この1年で，①摂食嚥下に関する情報様式，②嚥下調整食の記載様式，③医療機関の摂食嚥下診療機能に関するデータベースを作成した．